



◆コロナ関係 マスク規制の緩和

マスク着用義務が緩和されることになりました。
ポイントは下記のとおりです。

- ①屋外で周囲との距離が十分とれる場合は不要
- ②屋外で周囲との距離が十分とれなくても会話が少なければ不要
- ③多数の人が利用する公共交通機関では着用
- ④小学校などの屋外での体育授業で距離が取れば不要
- ⑤保育園児などの2歳以上の未就学児の着用は一律には求めない

こんな方針がでると、たちまちいつものように、too early(早すぎる) too late(遅すぎる)との意見が飛び交っています。コロナ前からマスク慣れしている日本人にとってはマスクは苦痛ではないようで、緩和されてもそんなに外す人は増えないと思います。

日本の感染者数は850万人を超え、14人に1人の感染となりました。1人で大騒ぎした2年前と隔世の感があります。

◆病院・慈恵会グループからのお知らせ

・診療案内ができました

新須磨病院の診療案内ができました。各診療科の治療内容得意技を分かりやすく解説しています。各グループにも配布しています。身内でも知らないことがたくさんあります。ご一読ください。

・松江総合医療専門学校に新校長

4月に松浦昌代さんが新校長が就任しました。松江市立病院看護局長を務めたあと、島根県看護協会会長や島根県看護連盟会長を歴任しています。

・AO入試を始めました

神戸総合医療専門学校、松江総合医療専門学校ともに今期からAO入試を始めました。

◆今週の院長予定

5月23日	月	8:00運営会議、17:30経営改善会議			
5月24日	火	9:00外来、16:00神戸市役所訪問、17:30業務改善委員会			
5月25日	水	松江 11:10看護学科1年生講義、13:30運営会議			
5月26日	木	9:00外来(辻先生の代診)、16:00患者面談			
5月27日	金	9:00外来、14:00手術、20:00医師会			
5月28日	土	9:45新須磨クリニック、14:00手術			
5月29日	日	11:30松江総合医療専門学校オープンキャンパスでリモート挨拶			

◆私の本棚

・今度生まれたら

内館牧子 講談社

主人公は古希を迎える女性。バブル期に一流企業に就職し、婚活でエリートサラリーマンを射止め専業主婦として夫に仕え、二人の男の子を立派に育てあげた。その夫がある事件で出世からはずれ退職してしまう。長男は妻子と別居、次男は独身でフラメンコギターにはまり、スペインにいてしまう。仲のよかった姉夫婦が突然の離婚。昔自分がつれなくした男性が世界的な園芸家となっている。虚無感に襲われた主人公が、自分の人生を振り返り後悔にさいなまれながらも、徐々に家族ともつながりを取り戻して行く姿を巧みに描いている。

この作家は「すぐ死ぬんだから」「終わった人」など中高年の日常を描くのは本当にうまい。



前に出ないと勝てない

「今度生まれたら」の一節

相手のパンチを受けないように避(よ)けていると、間違いなく自分にパンチは当たらないからダメージはない。だけど避けるということは、前に出ないことだから、自分のパンチも相手に当たらない。だから勝てない。

昔ほんのちよとだけ空手を習いました。確かに、踏み込まないと相手に拳は当たりません。踏み込むと、自分にも拳が当たります。2回肋骨を折って、痛さにめげて空手から足が遠のきました。

神戸で一番
親切で
丁寧で
優しい医療を

